



教育目標

明るく思いやりのある子（きよく）
進んで学ぶ子（かしこく）
健康でねばり強い子（たくましく）

沖縄県栽培漁業センターの玉城英信所長を講師に理科特設授業

7月10日（火）、沖縄県栽培漁業センターの玉城英信所長を講師にお招きし、「海の生き物の生き残り戦略」と題して、理科の特設授業を行いました。

玉城所長は、四方を海に囲まれた沖縄県の漁業資源が乱獲や埋め立て、自然環境の変化（温暖化、赤土流出等）により、年々減少しており、そのため、つくり育てる栽培漁業が重要になっていると、お話ししていました。

栽培漁業で取り扱っている海の生き物たちは、それぞれ、子孫を残したり、生き残ったりする上での戦略をもっており、その形や色、習性には必ず意味があるとのことでした。

減少している漁業資源を守るために「海にゴミを捨てない、ゴミを拾うこと、魚や貝の子ども達を採らない、採ったものを海に戻すこと」を行動してほしいと、お願いしていました。

沖縄の海は、世界有数の珊瑚礁のきれいな海です。その海の環境とそこに生きる生物たちを守る取り組みが必要であり、その重要性が子ども達に伝わった理科特設授業でした。



写真1 特設授業の様子①



写真2 講師の玉城さんといっしょに

児童の感想（講師へのお礼状より）

○私がすごいと思ったことは、栽培漁業は、魚を卵から稚魚までの弱い時期に人間の管理下で飼育することで、資源を保護するということです。また、オスとメスが会って、卵を100個運だとしても、自然界では1～2匹しか生き残れないのに、栽培漁業で人の手で育てれば、60匹も生き残れるとわかりました。資源を守るために必要なことだと思いました。海の生物を増やすために、私達でもできることは、ゴミを捨てないことです。捨てたゴミで海の生き物が死んだり、環境を破壊するからです。ゴミはきちんと持ち帰ろうと思いました。今日は、いろいろ新しいことが学べて楽しかったです。どうも、ありがとうございました。（6年 宮城美聖）

○今日の学習で栽培漁業とは、海の資源を守るための「つくり育てる漁業」であることだとわかりました。そして、すごいと思ったことは、ヤイトハタは、生まれた頃は全てメスなのに、10才ぐらいになるとその中から、一番強いメスが性転換して、オスになるということです。子孫を残すために必要な生物の戦略だと知りました。また、私も海を守りたいという気持ちがあるので、魚や貝などの子どもを採る人がいたら、「もっと大きくなるから、採らないでね。採っても、海に返してあげてね。」と声をかけようと思いました。海の環境を守るために、ゴミが落ちていたら、拾うようにしたいと思いました。今日は、たくさんのお話をありがとうございました。（6年 知念菜々子）

○栽培漁業は、魚を卵から稚魚までの弱い時期に人間の管理下で飼育することだとわかりました。また、魚や貝が生き残るために、いろいろな戦略があることがわかりました。例えば、魚の色にも意味があり、アーミーバイは岩のような色で周りと同化し、気づかれにくくなることです。他にも生まれた頃は全てメスなのに10才ぐらいになると一番強いメスがオスに性転換することで、たくさんの子孫を残せるようになることが不思議に思いました。私も玉城さんのようにいろいろな研究をしたいと思いました。（5年 當眞新菜）